

心豊かな世代が育つ童話の里づくり

435

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

「二人一人が変えられること」

小田小学校 六年

江隈 大翔

総合的な学習で、SDGs（エス・ディ・ジーズ）の学習をしています。

SDGsとは、「持続可能な開発目標」の略称です。二〇一五年に国連サミットで採択され、二〇三〇年までに達成したい十七の目標があげられています。最近では、新聞やテレビでもSDGsのカラフルなマークを目にするようになりました。

ぼくは、十七の目標の中で「飢餓をゼロに」という目標があることが正直いって信じられませんでした。つまり、これは世界で餓死している人がいるということなのです。

世界のどこかでは、ぼくがこうして勉強している時もおなかをすかせて困っている人がいるのです。

世界では、九人に一人が十分な食事がとれないで苦しんでいるそうです。ぼくの学校（全校児童十一人）で考えると、一人か二人が当てはまることになりました。

自分たちの住んでいる小田は、おいしい米を作っていることで知られています。そこで暮らすぼくは、なんの苦労もせず、毎日おなか一杯ごはんを食べています。そんなぼくにとって、食べ物がなく、食べられないと想像するだけで怖くなります。

毎日おなかをすかせている人がいる一方で、食べすぎて太りすぎの人は、飢餓の人よりも多くいることも知り、不平等だと思いました。

このような不平等は、どうしたらなくなるのでしょうか。

SDGsの目標は、十五年の期間で作られているので、目標達成としている二〇三〇年は、思っているより短く、世界を変えるのは大変ではないかと思っています。

状況を調べてみると、二〇〇〇年

から二〇一五年の間には、飢餓の人はほぼ半減したけれど、二〇一五年からの三年間、飢餓は増加し続けているそうです。その原因は、紛争の長期化、景気の悪化、それに加え、気象変動による洪水や干ばつも要因にあるとわかりました。

これらは、SDGsの十七の目標にある

一、「貧困をなくそう」

十三、「気候変動に具体的な対策を」

十六、「平和と公正をすべての人に」

そして、

十、「人や国の不平等をなくそう」

などの目標と関わってきます。

ぼくは、「飢餓状態にある人がいる」ということをもっと知るため、本やインターネットで調べていって、日本が世界一の農産物の輸入国であることを知りおどろきました。この現状を知って「なかなか解決しないのではないか」と思ったけれど、食べ物を無駄にせず、食べ残しを減らすこと

も、よその国の飢餓状態の解決につながるかもしれないと考えました。

まずは、知ること。知ったことをだれかに伝えること。そして、自分にできることは、何かを考え実行することが大切だと思います。

一人一人の意識を変えることは、世界で苦しむ人をなくすことにつながります。



ロゴ：国連広報センター作成